

特別企画「パネルディスカッション “女性技術者が描く将来像（夢）”」に参加して

基礎地盤コンサルタンツ 株式会社

コーディネーター 石綿 しげ子

初企画のパネルディスカッションは、現在活躍中の4名の女性技術者をパネリストにして、業界に対する魅力ある職場づくりを目指すための期待と抱負、これからの女性技術者のあり方などを話題にして行われた。会場は“さくら”の応援もあって150名余りの参加者となり、立席ができるほどの盛況であった。パネリストを介して参加者からの意見を頂き、女性技術者の実践的な体験談や業界関係者からも本音に近いお話を聞かせていただき、貴重な討論会となった。参加した4名のパネリストたちは安藤初子氏（国土防災技術）、牧野杏子氏（中央開発）、大迫玲子氏（応用地質）、磯野敦子氏（復建技術コンサルタンツ）で、コーディネーターを石綿が務めさせていただいた。

討論会では自分の経験を通して、多くの女性が参加できる業界にするために、女性技術者の活用について前向きな提言をしていただいた。特に働きやすい職場環境を意識した業界への期待と抱負や、問われる男

子技術者の意識改革などについて語ってもらった。

業界のイメージと印象の中で、自分の立場は地質学を専攻したので現場作業であっても不自然でなく素直に受け入れられる。資料箱等のような重い荷物の運搬を一人で運ぶことの大変さを体で感じており仕事を楽しむという感覚でやっている、男社会の中での女性観としては男性技術者の理解と協力によって自然体で受けとめられ、職場環境に無理なく馴染める、職種の内容からみても能力的に理解でき差別されることはない、社外との打合わせなどの際に初対面で軽視される態度をとられ偏見や不信感を感じることもある、などの意見があり、人間関係を大事にしながら、技術力を着実に蓄えられる環境にある事が知らされた。また、業界側の立場からの声として、一人前の技術者かどうか判断し難く先入観から軽視してしまいやすい、会社の信用問題もあり公的機関の業務では女性は意識的に外しているなどの様に、社会や地域に対して女性技術者の評価を高める必要性があることを実感させられた。

今年、男女雇用機会均等法が施行されてから10年目にあたり、女性の地位処遇や活用の仕方、女性自身の認識や意識改革などについて、社会的にまた個人的にも職場環境を見直す時期に来ている。この時期に業界が、女性技術者の立場について意識的に特別企画として取り上げたことは、大いに意義があると思います。地質調査業協会が実施したアンケート調査資料によると、有職女性の経験年数は5年以内が約75%、5～10年以内が約17%、10年以上が9%を示し、採用は最近5年間に集中しています。業務内容を概ね室内作業と現場作業に大別するとほぼ半々の割合にあり、経験年数からみて補助作業の割合が高く、専門技術者

として第一線で活躍するには未だこれからといった状況にあると推測されます。

このような時勢に行われたこの討論会では、現実的な問題を絡めた話題が主体となり、職場での役割、仕事に臨む姿勢、女性同士の協力体制、家庭生活と仕事との両立などのように、より良い職場環境づくりに欠かせない様々な問題を聞くことが出来なかったのが残念に思います。コーディネーター役としては不本意ながら若い彼女らの世代観の違いに途惑うものの、彼女たちの自己啓発、柔軟な考え方を身につけ仕事をこなし、こなそうとしている姿勢が会場内にも伝わったことが、今回の討論会を成功に導かせたものと感謝しています。

